今、何の病気が流行しているか！

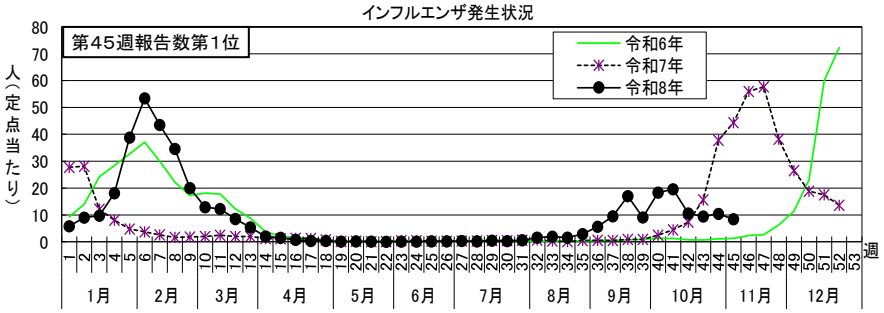
【感染症発生動向調査事業から】

令和８年１１月２日（月）～令和８年１１月８日（日）〔令和８年第４５週〕の感染症発生状況

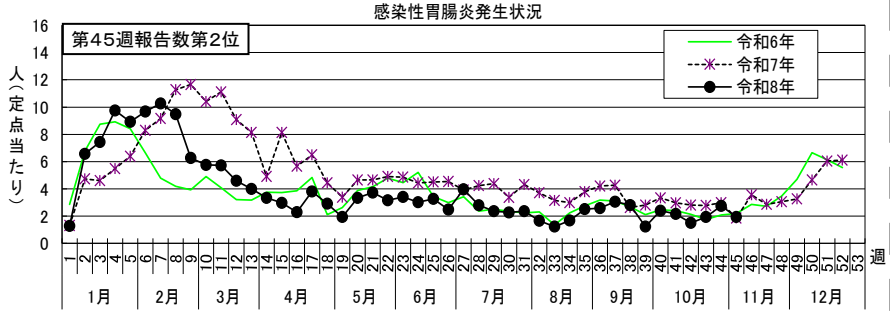
第４５週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、１）インフルエンザ　２）感染性胃腸炎　３）Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は８．３９人と前週（１０．３９人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は１．９５人と前週（２．７６人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は１．１４人と前週（１．１６人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



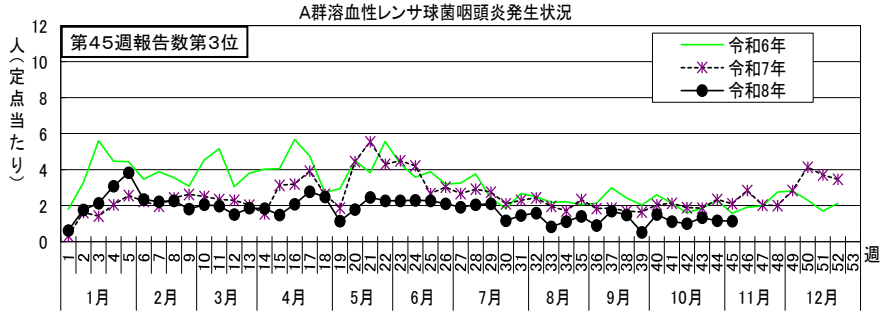
インフルエンザ発生状況



感染性胃腸炎発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況

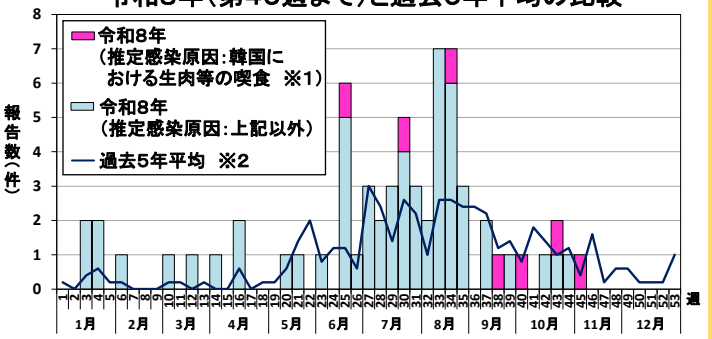


海外旅行では生肉に注意！～腸管出血性大腸菌感染症～

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌を原因とする感染症で、激しい腹痛や血便等のほか、溶血性尿毒症症候群等の重篤な合併症を引き起こすことがあります。例年は夏季に流行しますが、今年は９月以降も韓国で喫食したユッケ等の生肉が原因と推定される事例の報告が相次いでいます。

腸管出血性大腸菌は牛等が腸管内に保菌しているため、生肉や加熱不十分な肉類が感染源となることがあります。感染を防ぐためには、肉類を十分に加熱（中心部の温度７５℃で１分間以上）することが重要です。海外においても生肉や加熱不十分な肉類の喫食は感染のリスクとなるため、渡航先でも肉類は十分に加熱してから食べましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症の発生状況
－令和８年（第４５週まで）と過去5年平均の比較－



※1　令和８年１１月１０日１４時時点で国の感染症サーベイランスシステムに記載のある事例
※2　令和７年は複数の集団発生事例があったため、令和２年～６年の平均を算出

腸管出血性大腸菌感染症とは？

【感染経路】
経口感染、患者の便や菌で汚染されたものを介した接触感染（二次感染）



【潜伏期間】
２～１４日間（概ね３～５日間）

【症状】
激しい腹痛、水様性下痢、血便等

【合併症】
溶血性尿毒症症候群（ＨＵＳ）、脳症等

【食中毒予防対策】



・肉は中心部まで十分に加熱（７５℃、１分以上）する。
・生で食べる野菜は流水でよく洗う。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策課・
各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）０４４－２７６－８２５０　令和８年１１月１０日作成